

G20大阪サミット2019

公式記録誌

2019年G20大阪サミット
関西推進協力協議会

G20大阪サミット2019

公式記録誌



2019年G20大阪サミット
関西推進協力協議会

ご挨拶



2019年G20大阪サミット関西推進協力協議会
会長 吉村 洋文 (大阪府知事)

新しい時代を迎えた令和元年（2019年）の6月、世界最高峰の会議であるG20サミットが、世界の37の国・国際機関から首脳・代表が参加され、わが国で初めて、ここ大阪で開催されました。大規模な交通渋滞をはじめ大きな混乱などが心配されましたが、サミット開催に対する皆さまのご理解とご協力のおかげで、功裏に会議を終えることができました。また、会議を通じ、「OSAKA」の名を、その魅力とともに世界に発信できたと考えています。サミット開催中は大変なご不便をおかけしましたが、改めて、ご協力いただいたすべての皆さまに感謝申し上げます。

「2019年G20大阪サミット関西推進協力協議会」では、2018年3月の発足以降、G20大阪サミットの成功、そして、世界に向けた大阪・関西の魅力の発信と存在感の向上等をめざし、様々な取組みを進めてまいりました。

とりわけ、サミットの成功に不可欠な、安全・安心な会議環境を確保するため、会場周辺の住民や事業者の皆さまへのご説明や、デジタルサイネージやテレビCM等による積極的な広報活動を展開し、府民や事業者の皆さまに対して、ご理解・ご協力を求めました。

また、大阪・関西の多様な魅力を世界に発信するため、海外メディアを対象としたプレスツアーや国際メディアセンター、サミット開催前夜に来阪された代表団の方々をお迎えする地元歓迎レセプションを開催し、大阪・関西の食文化や技術力を実際に体験していただきました。

さらには、次世代を担う子どもや若者たちには、配偶者プログラムへの参加や通訳ボランティアなどを通じ、世界最高峰の会議を体感していただきました。世界を身近に考え、世界に目を向けるきっかけにつながったものと思っております。

今回のサミットにより、大阪が世界最高峰の会議を安全・安心に開催することができる都市であることを世界に証明することができました。また、大阪・関西の食や文化、高いホスピタリティについて、各国首脳等からも、高い評価をいただくとともに、「大阪トラック」や「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が合意されるなど、大阪・関西の知名度・都市格が向上しました。この成果を今後のMICE誘致や2025年の大阪・関西万博へとつなげ、大阪・関西のさらなる発展を実現したいと考えています。

皆さまの、引き続きのご理解・ご協力をお願い申し上げます。

ご挨拶



2019年G20大阪サミット関西推進協力協議会
会長代行 **松井 一郎** (大阪市長)

わが国初のG20サミットが大阪で開催され、成功裏に閉幕したことを喜ばしく思います。ひとえにサミットに関わった全ての方のご努力の賜物であり、サミットの開催を支えてくださった住民・事業者の方々に心から感謝申し上げます。

今回のG20大阪サミットは、世界最高峰の国際会議であると同時に、大都市で開催される都市型のサミットでした。わが国で近年開催されてきたG7/G8サミットとは異なり、各国首脳は都心部に宿泊し、サミット会場は居住エリアや物流拠点に近接するため、交通規制等や経済活動への影響を最小限にとどめることが重要な課題でした。

そのため、多くの企業・関係機関の方々と連携しながら、様々な広報活動を展開し、住民・事業者の方々への丁寧な説明にも努めたところ、皆さまの多大なご理解・ご協力により、難しいと思われた交通総量抑制の目標も達成することができ、大きな混乱もなく安全・安心にサミットを開催することができました。

サミットの開催を通じて大阪の知名度や都市格が向上し、大阪・関西の食や文化、産業技術等を世界各国にアピールすることもでき、「大阪トラック」の立ち上げ宣言や「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の共有など、「OSAKA」が世界の課題解決に向けた発信地として歴史に刻まれました。

このように安全・安心な会議開催環境を確保して各国の皆さまを最高のおもてなしでお迎えし、大阪・関西の魅力を世界に大きく発信することができた背景に、官民一体となった大阪・関西の底力を強く感じています。

サミット開催後に、未来を担う子どもたちにサミット会場を見ていただきましたが、サミットの成功を様々な形でレガシーとして残し、今後のMICE誘致や2025年大阪・関西万博をはじめ、大阪・関西の輝かしい未来につなげていきたいと思っております。

最後に、政府や外務省関係者の皆さま、当協議会の構成団体の皆さま、様々な形でご協力賜りました多くの企業や関係機関の皆さま、そして地元住民・事業者の皆さまに深く感謝申し上げます。

ご挨拶



2019年G20大阪サミット関西推進協力協議会
副会長 **井戸 敏三** (関西広域連合長)

G20大阪サミットを成功裏に終えることができました。ご協力いただいた多くの関係者、住民の皆さまに心から感謝いたします。

関西広域連合では、構成府県市とともにサミットの周知や交通規制に対する理解、協力の呼びかけ、大阪・関西の魅力発信等に精力的に取り組みました。とりわけ、広域連合が関西各地から集めた特産品等の情報を基に、夕食会等で各国首脳に関西の食材が提供され、また、サミット会場でも関西の特産品等が多く紹介されたことで、関西の魅力にスポットが当てられたことは大きな収穫でした。

併せて、広域連合の海洋プラスチックごみ削減に向けた取組みや、ワールドマスタースゲームズ2021関西の開催等についても世界に向けて発信することができました。

今回のサミットで得た経験を活かし、2025年大阪・関西万博をはじめこれから相次いで開かれる国際的ビッグイベントにおいても、関西の多様な魅力を全力で発信していきます。

ご挨拶



2019年G20大阪サミット関西推進協力協議会
副会長 **松本 正義** (公益社団法人関西経済連合会会長)

今回、日本で初めて開催されたG20サミットが大きな混乱もなく、成功裏に終えることができたことを地元経済界として大変嬉しく思っております。まずもって、サミットの議長としてリーダーシップを発揮された安倍総理、開催にご尽力された政府関係者に心より敬意を表します。また、企業の皆さまにおかれましては、当協議会へのスタッフ派遣やご寄附、サミット期間中の交通量削減や株主総会の前倒し開催など、多大なご協力を賜りました。改めて衷心よりお礼申し上げます。

多くの課題を抱える現在の世界情勢にあって、サミットが安全に開催できたことは大阪・関西に対する信頼度を大いに高めました。今回のサミットは、大阪・関西を世界にアピールする良い機会であったと同時に、これから続くゴールデン・スポーツイヤーズや2025年大阪・関西万博に向けて大きな弾みになったものと受け止めております。今回の成功を追い風に、自治体、関係団体とともに、引き続き関西の魅力発信に努めてまいりますので、今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

ご挨拶

2019年G20大阪サミット関西推進協力協議会
副会長 **尾崎 裕** (大阪商工会議所 会頭)



日本で初のG20サミットが大阪で開催され、各国首脳が集う会議が成功裏に終わったことを大変嬉しく思います。誘致から開催まで、多くの関係者のご尽力、府民・市民や企業のご理解・ご協力に改めて感謝申し上げます。

今回、大阪は最高レベルの安全とおもてなしが求められる国際会議を開催できる力のある都市として世界に認知され、知名度や信頼性、都市格を格段に高めることができたと思います。また、データ流通の新たな交渉枠組みとなる「大阪トラック」や海洋プラスチックごみの削減に取り組む「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」など、ここ大阪で世界共通の課題解決に向けた議論が始まったことの意義は極めて大きいと思います。

サミット開催の実績が、今後さらなる成長をめざす大阪の追い風となることを期待するとともに、国際都市・大阪の魅力を一層高めるレガシーとなって、2025年大阪・関西万博の成功につながるものと確信しています。

ご挨拶

2019年G20大阪サミット関西推進協力協議会
副会長 **池田 博之** (一般社団法人関西経済同友会代表幹事)



日本で初開催となるG20大阪サミットが無事閉幕しました。まずは会議を成功に導いていただいた全ての関係者に心から敬意を表します。世界の首脳が一堂に会する最高水準の国際会議を地元協力の下、無事に終えることができたことは、今後計画されるMICE、IRや2025年大阪・関西万博に向けて大きなアピールとなり大阪の都市としての評価や信頼につながりました。また、参加各国の政府関係者や海外メディアに大阪・関西の食、歴史や文化について知っていただく大変良い機会となりました。

米中貿易摩擦やイギリスのEU離脱など不安定な世界情勢の中、安倍総理のリーダーシップにより「大阪首脳宣言」が採択されました。調整が困難な中、各国を議論のスタートラインに立たせることができたことは大きな一歩であります。

本成功を機に、「安全・安心で魅力あふれる世界都市大阪」を世界へ発信し、後に控えるMICE、IRや2025年大阪・関西万博等の大型イベントを成功させ、大阪・関西の今後のさらなる発展につなげていきたいと考えます。

ご挨拶



2019年G20大阪サミット関西推進協力協議会
副会長 **深野 弘行**（一般社団法人関西経済同友会代表幹事）

今回のG20大阪サミットでは、データ流通に関する信頼性の高い仕組みづくりをめざす「大阪トラック」や、プラスチックごみからの海洋の環境保護をめざす「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」など、未来志向の具体的な論点が提起されました。また、世界がその帰趨に気をもんでいる米中貿易摩擦についても、両国が話し合いのテーブルに戻り、発出されるかどうか不安視されていた首脳宣言も出されました。

日本との経済交流に熱心な南アフリカ、ベトナム、エジプト等は首脳が自ら地元経済界と意見交換を行いました。また、各国の記者が集う国際メディアセンターでは、日本の技術や文化が紹介され、さながらミニ万博の様相を呈し、好評であったと伺いました。

今回のサミットは、これから2021年にワールドマスターズゲームズ、2025年に大阪・関西万博があり、さらには世界を相手にする統合型リゾート（IR）をめざす国際都市大阪にとって、その存在を世界に広く知らせ、国際化に向けて幸先良いスタートを切れたものと感じています。